

とよなかの市民活動 共同デスク

2012年8月 発行 第5号

とよなかの市民活動・共同デスク実行委員会

(社福) 豊中市社会福祉協議会
(公財) とよなか国際交流協会
(財) とよなか男女共同参画推進財団
(特活) とよなか市民環境会議アジェンダ21
(特活) とよなか市民活動ネットきずな(事務局)
TEL&FAX: 06-6848-8989

「語らいカフェ in 共同デスク」

9月2日(日) 13時~15時
テーマ「あなたの居場所」

共同デスクでは、9月1日(土)・2日(日)に開催される秋のイベント『「国際交流と人権を考えよう」 in 豊中国際交流センター』に参画し、「語らいカフェ in 共同デスク」を開店します。

テーマは「あなたの居場所」。家庭の中の、地域の中の、社会の中の“あなたの居場所”について語り合いたいと思います。そこにいと落ち着ける、同好の気のおけない仲間とのなどなど、みんなそれぞれに居心地のいい居場所があってこそ、地域で豊かな暮らしが営めるのだと思うから。あなたも参加してみませんか。

「国際交流と人権を考えよう」は、東北復興支援をかかげて、9月1日(土)13時~16時30分、2日(日)10時~16時に開きます。



哲学カフェ in すてっぴ
8月25日(土) 14時~16時、
すてっぴセミナー室

「ご近所付き合いは 何のため？」

哲学カフェは、生きていくうえで出会うさまざまな問題について、語りあう場としてフランスで発祥しました。すてっぴの哲学カフェは、今回が2回目です。8月のテーマは『「ご近所付き合いは何のため？」。「子育て、防犯、防災…いざというときに頼りになるのはご近所さん」「コミュニケーションの第一歩」「近所づきあいが地域を元気にする」「おせっかいか？親切か？」「こんなもめごとありました」などなど、参加者それぞれの経験をもとに、自由に語り合しましょう。

松川絵里さん(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)が進行役を務めます。



社会福祉協議会が提案する 「いばしょ」について 発達障害者等を対象に居場所づくり「びーの びーの」

豊中市社会福祉協議会では、平成16年から市内の各生活圏域にコミュニティソーシャルワーカー(CSW)を配置し、各種制度の狭間となっている相談や支援に対応してきました。

その内容は多岐に渡り、ひきこもり、ホームレス、ゴミ屋敷、DVなどの課題に、多くの地域住民の方々のご協力の下、取り組む事ができました。

それら支援の一つとして、平成20年に、発達障害者等の相談から、同じような悩みを抱えている家族同志の交流や情報交換のために家族交流会を立ち上げました。翌平成21年からは、就労やひきこもりに悩む青年期の子どもを持つ家族が自主的に月1回集まるようになり、平成23年度に、国の緊急雇用創出基金を活用し、豊中市からの委託を受けて、発達障害者等を対象に昼間の居場所づくりとなる「びーの びーの」(自由な「のびのび」を逆にした名称)を立ち上げました。

いわゆる「引きこもり」と言われる就職に距離のあるメンバーが、本人の特性・特技を活かし、新たな可能性を引き出すためのヒントを得る場所となればと、メンバー、スタッフが丸となってアクティブに活動しています。写真は、「びーの びーの」で作成した、手作りグッズです。

(社福) 豊中市社会福祉協議会 地域福祉課 藤岡(由)



哲学カフェ in とよなか国際交流センター 報告

『居心地のいい場所』って、どんな場所？



2012年7月21日(土)とよなか国際交流センターで哲学カフェが開催されました。「『居心地のいい場所』ってどんな場所？」をテーマに参加者15人が集まりました。

はじめに、自分が居心地の良いと思う場所をそれぞれが体を動かしたり、体勢を変えたりして作るというワークを行いました。その後、「あると居心地良く感じる物」の例を参加者が出し合い、居心地のいい場所とは「ストレスの無い場所/安心できる場所ではないか」などの意見が出されました。前半は主に「お気に入りの場所と居心地のいい場所とはどう違うのか」についての言及に集中したように思います。後半は「気にいる場所がない」よりも、「居場所がない」は深刻で残念なことだと感じるのは何故だろう、という疑問を土台にさらに議論が深まりました。

進行役(荻野亮一さん 大阪大学大学院生)からは最初に「ここにはいられない」「ここではない」ことの間接的感覚や、社会的故郷喪失者の存在が紹介され、居心地のいい場所とそうでない場所の関係を考え、社会における「居場所」の創出の可能性を考えたいという提案から、カフェは始まりました。今回は「居場所の創出の可能性」に関する話が話し合われるには時間が短かったように感じましたが、参加者の中には「居場所づくり」に関する取組みに関心を持つようになったと感想を残した方もいました。

とよなか国際交流センターでは2009年から哲学カフェを大阪大学コミュニケーション・デザインセンターとカフェフィロと協力して継続的に開催しています。参加される方はそこが自分の考えを話せる場所だから、あるいは様々な意見を聞くことができる場所だから、その時のテーマに関心があるから、など様々です。場の雰囲気はテーマや進行役、参加者によって毎回異なります。皆様のご参加お待ちしております。

(公益財団法人 とよなか国際交流協会 阿部 和基)

次回9月21日(土)15:00~17:00 前回と同じく「居場所」をテーマに、大阪大学大学院生・辻典典さんの進行で、前回とは違う問いを設定して別の角度から「居場所」について考え、議論します。

市民活動情報サロン「ウィークリーサロン」地域の活動場所をたずねて

TIFA カフェサパナ(本町3丁目3-3)

「外国人と一緒に運営するコミュニティカフェを訪ねて」



コミュニティカフェサパナは、NPO 法人国際交流の会とよなか(TIFA)が、3月10日にオープンしました。サパナは、TIFA がかけている「地域に住む外国人が住みやすい地域づくり」をすすめるために、それぞれの文化を気軽に理解できるように、その国の話を聞いたり、食文化を通じて交流したり、外国の言葉や文化を体験したり学んだりする場の提供をめざしています。

「サパナ」とは、ネパール語で「夢」。カフェでは、美味しいコーヒーや紅茶、手作りのお菓子などを楽しめるスペースで、外国人が腕をふるう日替りランチや、ネパールの女性たちの作品やフェアトレードグッズなどを展示販売するお買物コーナーを設けているほか、国際交流しながら外国の言葉や文化を学ぶ教室を開いています。

おかまちコミュニティカフェ kitto (中桜塚2丁目27-8)



コミュニティカフェ「kitto(きっと)」は、岡町桜塚ショッピングセンター2階に2009年11月、オープン。豊中市の「ふるさと雇用再生基金事業」を活用した事業で、ランチやコーヒーなど、通常のカフェのほか、イベントやパーティ等にサロンスペースの貸し出しなど幅広く営業、月に2回夜もオープンしてきました。食をテーマにした交流の場作り「ワンディッシュ」募集では、フィリピン、タイ、台湾などアジアの各国料理が続きました。

この事業は今年3月末で一旦終了、4月からは、「プラットホーム豊中」が、運営しています。これは、2年間以上にわたる運営をつうじて、出来上がってきたカフェのお客さんとの関係を「地域の財産」として、持続させていきたいという思いによるものです。営業日は、毎週月・水・金・日曜日の10時~18時ですが、4月から、毎週火・土曜日の11時~17時は、学生たちが、滞日アジア人女性の居場所づくりをめざしたエスニック・カフェCASAがオープンしています。

※ この壁新聞は、5つの中間支援団体のとりくみを、分野をこえて情報発信しようと考えた取り組みです。